

Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会 (日印間の政治・経済・文化交流に貢献して 109 年)



<日印国交樹立 60 周年記念式典 点火式 インド大使館にて>

2012 年 1 月 16 日

目次

1. 年頭のご挨拶 .....	P. 3
2. 野田総理のインド訪問の意義について .....	P. 4
3. ご存知ですか? .....	P. 6
4. インドニュース(2011 年 12 月) .....	P. 7
5. イベント紹介 .....	P.11
6. 新刊書紹介 .....	P.13
7. 日印貿易概況 .....	P.14
8. 掲示板 .....	P.15



# 1. 年頭のご挨拶

## New Year's Greeting



2012年1月

公益財団法人 日印協会  
代表理事・会長 森 喜朗

日印協会会員の皆様、明けましておめでとうございます。  
ご健勝にて新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。  
当協会へのご協力を心より感謝申し上げます。

本年は、今から60年前の1952年、日印両国が平和条約に調印し、外交関係を樹立して60周年を迎える意義ある年となりました。日印間の友好・親善関係が、年々強化され発展してきましたことは、日印両国の関係強化に腐心して参りました公益財団法人日印協会会長として真に喜ばしいことです。

今日に見る、極めて良好な日印関係が築かれたのは、一朝一夕に出来上がったものではなく、長年にわたる両国政府並びに両国民のたゆまざる努力の結果であると確信します。

昨2011年は、両国関係は近年に見ない高まりを見せました。それは、言うまでもなくこれまでの歴代内閣がインド政府との間に良好な関係を築くために、不断の努力の積み重ねをしてきたこと、東日本大震災に際してインドの官民が深甚なる弔意を表した上、インドの緊急救助隊が世界で初めて日本を訪れ宮城県で遺体発見・収容活動に当たったこと、昨年8月に長らく懸案であった日印包括的経済連携協定(CEPA)が発効したこと、並びに昨年末に野田佳彦首相が両国首脳の年次相互訪問の一環としてインドを訪問し、「日印戦略的グローバル・パートナーシップ」の精神を体して、シン首相はじめ各界の皆さんと政治・安全保障、経済をはじめとする二国間関係や、地域情勢・地球規模問題を含む幅広い分野での協力強化について意見交換を行なうなど、日印関係の発展に貢献する数々の行事を積極的に進めたことによるものと思います。

本年の日印国交樹立60周年行事は、わが国においては、1月16日に東京のインド大使館で開催される記念式典、及び大使館と当協会が共催する「日印交流写真展」と討論会によって幕が切っております。

他方、インドにおいても在インド日本大使館が中心となり、1年の間を通じて記念行事が行われます。日印協会は、3月14日にニューデリーのインド国際センターにおいて、写真展と討論会を開催するほか、インド国内各地の日本総領事館と国際交流基金の協力を得て写真展を巡回開催することにいたしております。

また、日印協会と致しましては、日印双方の有志が行う各種のプログラムを御支援する予定です。

公益財団法人日印協会は、法人会員・個人会員の皆様の絶大なご支援を戴きながら、日印友好親善の拡大強化という公益のために努力いたしております。Webサイト、月刊誌『月刊インド』及びWeb季刊誌『現代インド・フォーラム』の発刊を通じた情報の評価分析および皆さまへの提供、展示会、講演会、文化行事などの主催や後援等による相互理解と親善の増進のほか、日印のビジネス関係の促進のために助言及び支援をいたしております。今後も民間レベルでの日印交流の輪が拡大するよう努力して参ります。

皆様には、この新しい1年のご健勝とご活躍をお祈りしつつ、年頭の所感の一端を申し上げます。ありがとうございました。

## 2. 野田総理のインド訪問の意義について

### Results of P.M.NODA's Visit to India

公益財団法人日印協会  
代表理事・理事長 平林 博

野田佳彦首相は、去る 12 月 27 日および 28 日、インドのニューデリーを訪問した。国賓としての訪問であった。

日本経団連の米倉弘昌会長、同副会長の西田厚聰・東芝会長、川村隆・日立製作所会長、小島順彦・三菱商事会長、奥正之・三井住友フィナンシャルグループ会長、宮原耕治・日本郵船会長、大宮英明・三菱重工業社長、南アジア委員会委員長の庄田隆・第一三共会長等の錚々たる財界人が同行した。

野田首相のあわただしい年末の訪問は、日印戦略的グローバル・パートナーシップの精神に基づき、首相は毎年交互に相手国を訪問するとの約束があるからである。一昨年 10 月には、マンモハン・シン首相が訪日している。野田首相は、訪中に続き、また国内での「税と社会保障の一体改革」の議論などで多忙な中ではあったが、インドとの約束を果たしたことになる。また、本年が日印国交樹立 60 周年の節目になるので、その前に行っておこうとの配慮があったものと推測する。

野田首相は、28 日には、マンモハン・シン首相との会談を行ったほか、アンサリ副大統領及びクリシュナ外務大臣と会談した。また、インド側経済団体と日本側財界人との間で開催された日印ビジネス・サミット・リーダーズ・フォーラムに出席した。さらに、インド世界問題評議会 (Indian Council of World affairs) において講演した。

首脳会談の後、両首相は、「国交樹立 60 周年を迎える日印戦略的パートナーシップ強化に向けたビジョン」と題する共同声明を発出した。

共同声明については、外務省ホームページに掲載されているので、下記 URL をご参照願いたい。  
URL [http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s\\_noda/india\\_1112/joint\\_statement\\_jp2.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_noda/india_1112/joint_statement_jp2.html)

共同宣言の中では、すでに実施済みの計画等が言及されているが、筆者が新たなイニシャティブとして注目すべきと考える点は次のとおりである。

#### 1. 閣僚級経済対話の早期開催

これはすでに決定済みのことであるが、実施するためには、双方から経済閣僚が数名ずつ出席しなければならず、かなり日程調整に苦勞するものである。かつて、わが国は、米国や韓国などと同種の閣僚会合を持っていたが、関係経済閣僚を相当数動員しなければならないので、自然に廃止された経緯がある。インドとの間で敢えてこれを実施しようとするところに、日印双方の意気込みが感じられる。

#### 2. デリー・ムンバイ貨物専用鉄道建設計画(DFC)の促進

野田首相は、DFC の西回廊(デリー・ムンバイ間)の早期実現のために DFC を含む 2 案件に総額約 17 億ドルの円借款供与を決定した。両首相は、日本企業の参画と協力への期待を強調した。

#### 3. DMIC への資金協力

デリー・ムンバイ産業大動脈構想(DMIC)は、すでに日印双方からの 90 億ドルの出資でファシリティ(基金)のために、野田首相は、インド側が 1,750 億ルピーの基金を立ち上げたことに留意し、日本が総額 45 億ドル規模の資金供与を行うことを表明した。

#### 4. 南インドへのインフラ整備協力

南インドへのインフラ整備協力、ますます多くの日本企業が直接投資を行っているチェンナイ・バ

ンガロール間の連結性の向上、インドの高速鉄道構想への協力強化のために、包括的な統合マスタープランの作成に協力することになった。

とりあえずは、東芝、日産、コマツ、トヨタ等の日本の現地工場が熱望しているチェンナイ周辺の道路、橋梁等のインフラ整備を急ぐことになる。インド政府や日本側は、タミルナド州政府との接触を強化しており、インドの中央政府と州政府との協力と日本側の援助により、投資環境が整備されることを期待したい。

#### 5. 通貨スワップ取り決めの拡大

すでに発足済みの日印通貨スワップ取り決めに従来30億米ドルから150億米ドルへと5倍に拡大する。これにより、欧州のソブリン・リスク等による通貨の引き上げがあっても、インドが抵抗力を増すことになる。

これはあたかも、1991年のインドの外貨危機に際し、わが国が緊急外貨融資を行い、インドの危機を救ったことを想起させるものである。なお、1991年の外貨危機においては、当時のマンモハン・シン財務大臣が訪日して支援取り付けにあたったが、今回のわが国の対印協力は、筆者のように当時を知る者にとっては、1991年当時のことを想起させるものである。

#### 6. 日印原子力協力協定の交渉再開

日印原子力協力協定交渉は、3回の交渉の後福島第一原発事故のために中断していたが、両首相は、「原子力安全を含む関心事項に適切な考慮を払いつつ、交渉者に対し妥結に向けた一層の努力を指示」した。これは、交渉再開を示唆するものであり、日印の関係者が待ち望んでいたのみならず、日本の技術や資材を活用しながらインドへの原発輸出を習っている諸外国も期待していたことである。

#### 7. レアアース及びレアメタルでの日印協力

レアアース及びレアメタルについて、両国企業の生産・輸出に関わる協力強化を決定した。これは、昨年以來、最大の生産国である中国が輸出制限を行う等の問題ある対応を行ってきたことに対する一つの答えである。

#### 8. ナーランダ大学再興への協力

北インドのビハール州のナーランダは、かつて中世の時代に仏教の研究教育や布教の中心として栄えた大学があった。唐の玄奘も訪れて研究にいそしみ、仏典を中国に持ち帰ったいわれのあるところである。インド政府の呼び掛けにより、仏教の盛んな15の国々が国際大学としてのナーランダ大学の再興に協力を約束しているが、今般、野田首相は、わが国からの学术交流や人材育成など具体的貢献を行う意図を正式に表明したわけである。

#### 9. 海洋の安全保障の再確認

両首相は、「アジアの海洋国として、海洋に関する国際法諸原則等へのコミットメントを改めて確認するとともに、航行の安全及び自由を含む海上安全保障分野での協力拡大を確認」した。日印両国は、東シナ海及びインド洋への中国の膨張傾向を憂慮しているため、昨年11月の東アジア首脳会議で謳われた原則を、あらためて確認、強調したものである。



<大統領官邸での歓迎式における野田首相夫妻とシン首相夫妻  
Prime Minister of India ホームページより>

### 3. ご存知ですか？

Do you know?

日印国交樹立 60 周年にあたり、『日印国交樹立 60 周年テーマソング』が作られたのを、皆様はご存知でしょうか。作詞作曲は、在印日本大使館の柳楽昌宏(なぎら・まさひろ)書記官が中心に行いました。昨年 10 月に作詞作曲、12 月中旬にスタジオでの録音及び編集をしました。専ら、週末・夜間を利用して行ったそうです。柳楽書記官は全編を通じてピアノを演奏し、編曲全過程の指揮に参加しています。

日印の交流を象徴し国際色豊かに、楽器は邦楽器(神楽横笛、琴、和太鼓、三味線)、インド楽器(シタール、サロード、タブラ、ドーラック、タンプーラ)、西洋楽器(ピアノ、ドラム、ベース、アコースティックギター)を使用し、歌詞は、日本語、ヒンディー語、英語です。

現地の邦人、日本人学校の生徒、インド人生徒、ボランティア等、多くの方々の関わりがあって実現できたとのことです。

昨年 12 月 28 日には、訪印中の野田総理夫人とマンモハン・シン インド首相の夫人を招いて市内の学校で発表コンサートを実施しました。生徒、保護者、学校関係者など 300 人を招いての演奏は大成功で、参加者全員がとても楽しく演じ、充実したものでした。日印のメディアにも広く取り上げられました。

柳楽書記官が曲に込めた思い、以下の通りです。

- これから大きな飛躍を遂げる日印関係を象徴する「若さ」と、それぞれの国の誇れる「伝統」を表現しながら、皆が歌える曲を作りたいかった。
- 将来を担っていく子供たちが合唱することで「若さ」を、伝統楽器を使うことで「伝統」を表現した。
- 第一部は日本語、第二部はヒンディー語、第三部は両国伝統楽器の共演、第四部は全員が歌える英語の歌詞になっている。
- 歌詞のメッセージは、日本語で「会いに行きたい」と呼びかけ、ヒンディー語で「ずっと待っていた」と応え、英語で「手を取り合って前に進もう」とする。

この素晴らしい歌の合唱の様子や、歌詞や構成については、在印日本大使館のホームページでもご覧いただけます。 URL [http://www.in.emb-japan.go.jp/2012celebrations/theme\\_song.html](http://www.in.emb-japan.go.jp/2012celebrations/theme_song.html)

本文は柳楽書記官にお送り頂いた資料をもとに、当協会にて編集させて頂きました。



< 『日印国交樹立 60 周年テーマソング』発表コンサートをご覧になる  
野田総理夫人とマンモハン・シン首相夫人(上)と、合奏する人達(下左)や合唱する日印の生徒達(下右)>

写真提供: 在印日本大使館

## 4. インドニュース(2011年12月) News from India

### 内政

12月3日

- 英字各紙は、オディシャ州でマオイストとみられる約15名が携帯電話用の塔を爆破した旨報道。

12月4日

- 英字各紙は、3日、ジャールカンド州で道路に仕掛けられた爆弾が爆発し11名が死亡した旨報道。ナンダリ国会議員を狙ったテロ事件とみられる由(同議員は無事)。
- 英字各紙は、3日、ビハール州ガヤ県で武装したマオイストが中央警察予備隊の営舎を襲撃した旨報道。

12月9日

- コルカタ市内の私立アムリ病院で火災が発生し90名以上の死者が発生。

メモ:

私立アムリ病院はコルカタ市内有数の私立総合病院で、在留邦人の利用も多い病院

12月20日

- 英字各紙は、ジャヤラリータ・タミル・ナードゥ(TN)州首相が、同女史の約30年間にわたる側近・盟友であったサシカラ女史及びその関係者を全インド・アンナ・ドラビダ進歩連盟(AIADMK)から追放した旨報道。

メモ:

報道によれば、ジャヤラリータ州首相は追放の理由を説明していないが、AIADMK筋はサシカラ女史や同女史一族の州行政や党に対する行き過ぎた干渉が理由であるとしており、ジャヤラリータ州首相は、州大臣や官僚からの報告がサシカラ女史によりフィルターにかけられた後に自分に伝えられていたことに激怒していた由。また、最近の州政府特別計画局の幹部職員の辞任や州警察情報担当副部長等の人事異動もジャヤラリータ州首相とサシカラ女史の対立に端を発していると考えられていると報じられている。

12月22日

- インド人事・公的苦情・年金省は、国家及び州レベルにおけるオンブズマン制度導入法案(ロークパル法案)及び同制度に憲法上の地位を与えるための憲法改正法案を提出した旨発表。

メモ:

ロークパル法案の概要は以下のとおり。

- \*新たな独立機関として国家レベルでは「ロークパル」、州レベルでは「ロカコクタ」を設置。両機関は、汚職防止に関する法律の下、苦情に対する調査及び基礎のための初動調査に対する監督・指揮権を有する。
- \*ロークパルは、議長1名と最大8名のメンバーで構成。メンバーのうち半数は指定カースト、部族カースト及びその他の後進諸階級、マイノリティ及び女性から選ばれる。
- \*ロークパルの管轄権は、全てのカテゴリーの公務員に及び、ただし、首相に対する調査は、国際関係、国外・国内の安全保障、公的秩序、原子力エネルギー、宇宙に関することについては扱うことができない。
- \*ロークパルは、その取り扱う事件につき、中央捜査局を含むすべての捜査当局に対し、監督・指揮権を有する。

12月24日

- インド選挙管理委員会は、ウッタル・プラデーシュ州、パンジャブ州、ウッタラカンド州、マニプール州、ゴア州の州議会選挙日程を発表。投票は1月下旬から順次開始され、開票は各州とも3月6日に一斉に行われる。

メモ:

今回州議会選挙がおこなわれる5州のうちウッタル・プラデーシュ(UP)州は人口約2億人とインドの州の中でも最大の人口を有する州であり、投票も合計7回に分けて行われる。UP州議会選挙は2014年の下院総選挙に向けて重要な州議会選挙と見られており、 कांग्रेस党もラフル・ガンディー幹事長が積極的な活動を行っている。

12月27日

- 英字各紙は、シン首相が、タミル・ナードゥ(TN)州出身の天才的数学者であるスリニヴァス・ラマヌジャン誕生 125 周年記念行事出席のため、25 日及び26 日の2 日間にわたり TN 州を訪問し、ジャヤラリータ州首相と会談した旨報道。

メモ:

ジャヤラリータ州首相はシン首相に対し 18 ページに及ぶ覚書を提出。

同覚書には、

ムラペリヤードダム問題(注: TN州とケララ州の境に 125 年前に建設されたダムで、ケララ州は同ダムが老朽化しており決壊のおそれがあるとして水位を低く抑えるよう求めているのに対し、TN州はダムの安全性は問題ないとして水位を高くして自州に供給される灌漑用水量が十分確保されることを望んでいるもの)。

国家食糧安全保障措置法案におけるTN州の免除

TN州漁民の伝統的漁業権及び安全確保要請

TN州の財政危機克服のための特別金融支援パッケージ供与の要請

中央政府による販売税率削減による州政府歳入低下保障措置要請

TN州電力公社支援措置要請

等が含まれている。

- インド連邦下院において、情報提供者を守るための法案及びロークパル法案が可決、他方、3分の2の賛成が必要となるロークパル法案を憲法に加えるための憲法修正案は否決される。

12月29日

- 冬季国会が12月29日で終了。ロークパル法案は投票前に時間切れとなり不成立に。

12月31日

- 英字各紙は、タミル・ナードゥ州与党の全インド・アンナ・ドラビダ進歩連盟(AIADMK)の党会議に出席したジャヤラリータ州首相は、先般追放した側近であり盟友のサシカラ女史及び同女史家族に対し党再加入の許可を下すことはあり得ない旨、また、州政府は腐敗から解放されるべきであり、党员は地味で正直な生活を営み、党幹部や州民との接触を怠らず、派手な振る舞いを避けるべきであり、その結果、前政権 DMK と異なり、クリーンな政府と政権維持能力が与えられると述べた旨報道。

経済

12月8日

- 英字各紙は、ムカジー財務大臣が、7 日に開催された全党集会において、マルチブランドの小売業への海外直接投資を 51%まで認めるとの閣議決定は様々な関係者とのコンセンサスが得られるまで一時棚上げする旨発言。



メモ:

インド政府が11月24日に行ったマルチブランド小売業への外資規制緩和の決定は、消費者に選択の機会が増えることや、農家が生産物を高い価格で販売できるようになること、新たな投資や就労の機会が増えることなどから、産業界からは歓迎されたものの、野党は、マルチブランド小売業への外資開放は伝統的な小売業者の雇用喪失につながるものとして反対を表明。また、野党のみならず連立与党を構成する草の根会議派のバナジー首相も同決定への反対を表明した。政府による閣議決定が冬季国会の開会時期であったため、本件は政治問題となり、政府が閣議決定の一時棚上げを決めるまで国会での質疑が全く行えない状態となってしまった。なお、ビジネス・スタンダード紙は、政府はウッタル・プラデーシュ州の選挙後、2012年の4～5月頃にマルチブランド小売業への外資開放問題を改めて取り上げられると見られるとする情報筋の発言を報道。

12月9日

- ヒンドゥー紙は、インド政府が提唱するハイデラバード-チェンナイ間高速鉄道構想につき、連邦鉄道省はJARTSを中心としたコンソーシアムが事前実施調査の実施機関として選定した旨報道。
- ビジネス・スタンダード紙は、グジャラート州は今後3～5年で自動車生産のハブとして地位を確立するであろうと報道。

メモ:

報道では、グジャラート州はマルチ・スズキ、プジョーPSA、フォード、キア自動車、タタ、ゼネラル・モーターズを誘致してきており、2015年～2016年にはインド国内で生産される自動車の3台に1台がグジャラート州で生産されるようになることと報じるとともに、マルチ・スズキのパルガヴァ会長は、同社がグジャラート州で取得予定の1,400エーカーのうち約半分が既に州政府によって買収されており、残りの土地についても州政府が支援する姿勢をみせるなど土地取得に協力的でインドでありがちな農民とのトラブル等が少ないことがグジャラート州を投資先として好まれる理由であると述べたと報道。

12月12日

- インド政府中央統計局は、2011年10月の鉱工業生産指数が前年同月比マイナス5.1%となった旨発表。

メモ:

インドの鉱工業生産指数が2009年6月以来約2年半ぶりに前年同月比マイナスとなった。また、減速幅も、エコノミストが事前予測でブルームバーグが-0.7%、ダウジョーンズが-0.55%となっており、予想を大きく上回る下げ幅となった。産業別では、鉱業が-7.2%、製造業が-6.0であったのに対し、電力は5.6%のプラス成長となった。

12月16日

- インド準備銀行は、中間四半期金融政策レビューにおいて政策金利の据え置きを発表。2010年3月以降以降の金融政策会合で13回連続して利上げが決定されていたが、今回はそれ以来初の金利据え置き決定となった。

メモ:

インド準備銀行はプレスリリースで、現在のインフレ及びインフレ期待はインド準備銀行が許容できるレベルではないが、高い原油価格及びルピー安にもかかわらず、インフラ圧力はこれから落ち着くと期待されている旨記載。

## 外交

12月4日

- インド外務省は、オーストラリア労働党が、インドへの発電目的でのウラン売却を是認することで合意したことを歓迎するとしてクリシュナ外相の発言を発表。

12月7日

- オーストラリアのスミス国防相がインドを訪問し、アントニー国防大臣と会談。本格的な二国間海上訓練の実現に向けた調整や2012年におけるトラック1.5国防戦略協議の調整、2012年のアント

二 国防大臣のオーストラリア訪問等で合意。

12月16日

- シン首相がモスクワを訪問し、メドヴェージェフ大統領およびプーチン首相と会談。

メモ:

インドはロシアとは旧ソ連時代から伝統的に良好な関係を維持しており、インドとロシアの間では毎年交互に首脳が相手国を訪問し首脳会談を行っているほか、軍事分野や民生用原子力の分野での協力が進んでいる。今次首脳会談後に発出された共同声明でも両国の関係を「特別で特権的なパートナーシップ」と表現している。今回の訪問の成果としては、クダンクラム原子力発電所第3及び第4発電ユニットへのロシアの借款供与に合意などがあげられる。

12月20日

- インド外務省は、金正日国防委員長長の死亡に関し、シン首相が哀悼の意を表明し、アフマド外務担当閣外相が在インド北朝鮮大使館で弔問記帳した旨発表。

12月26日

- イスラマバードでインド・パキスタン両国による第5回通常兵器信頼醸成措置に関する専門家レベル会合が開催され、印パ両国は管理ライン上の停戦を含む既存の措置の実施をレビューしたほか、同措置に関する議論を今後も継続することを確認。

12月27日

- イスラマバードでインド・パキスタン両国による第6回核の信頼醸成措置に関する専門家レベル会合が開催され、印パ両国はラホール宣言で合意された既存の措置の実施及び強化に係るレビューを行った他、双方にとって受け入れ可能な追加的措置の可能性につき探ることで合意。また、印パ両国は、双方の外務次官に対し、「核兵器に関する偶発事故の危険性を減ずるための協定」の有効期限を新たに5年延長する旨提言することに合意。

メモ:

通常兵器および核の信頼醸成措置に関する専門家レベル会合はいずれも2011年7月にデリーで行われた印パ外相会談の合意事項として開催されたもの。

- タイのトーウィチャックチャイグン外相がインドを訪問し、クリシュナ外相との間で第6回インド・タイ共同委員会を開催。

## 日印関係

12月28日

- インドを訪問中の野田総理大臣はシン首相と会談。

メモ:

野田総理大臣は12月27日から28日にかけてインドを国賓として訪問。27日夕方に到着し、翌28日の夜にはインドを離れるという短期間の滞在ではあったが、在留邦人との懇談会やシン首相が出席しての歓迎式典、インド世界評議会主催の講演、アンサリ副大統領との会談やシン首相との首脳会談やシン首相主催晩さん会等盛りだくさんの訪問となった。また、同行した野田総理夫人は日インド国交樹立60周年記念音楽会に出席。同音楽会では、デリー日本人学校の生徒がインド人生徒とともに、国交樹立60周年を記念して在インド日本大使館の職員が作詞作曲したオリジナル曲を合唱した。

( 関連記事 P.P.4~5 『野田総理のインド訪問の意義について』、P.6 『ご存知ですか?』 )



<2011年12月28日日印首脳会談に臨む両首脳 >

写真提供: 内閣広報室

この写真は、インド大使館で開催される写真展にも展示されました。

今月の注目点: ママタ・バナジー西ベンガル州首相

バナジー西ベンガル州首相率いる全インド草の根会議派(TMC)は連立与党UPAの一員であり、UPA内では上院・下院とも桁が違うものの最大与党 कांग्रेस党次ぐ勢力を有している(上院: कांग्रेस党 71 議席、TMC 7 議席 / 下院: कांग्रेस党 208 議席、TMC 19 議席)。しかしながら、今月行ったインド国内政治の大きな 2 つの出来事(マルチブランド小売業への外資規制緩和閣議決定の一時棚上げとロークパル法案の審議未了)のいずれにも、バナジー西ベンガル州首相(あるいはTMC)が重要なファクターとしてからんできている。

マルチブランドの閣議決定の一時棚上げは前述のとおりであるが、ロークパル法案の審議においてもTMCは下院では賛成したものの、州レベルでのオンブズマン制度に関する条項が含まれることに反発し上院では反対にまわり、上院での審議未了に大いに手を貸すこととなった。

バナジー州首相は、連立与党の一員ではあるが、次回の総選挙もにらみつつ、西ベンガル州での支持層である貧困層や農民からの受けを第一に考えて行動する傾向にあり、今後ともマンモハン・シン政権の頭痛の種となりそうである。

## 5. イベント紹介 Japan-India Events

### = 今後のイベント =

#### 魅せられて、インド。 日本のアーティスト / コレクターの眼



福岡アジア美術館様のご厚意により招待券を頂きました。本展の観覧をご希望の方には、招待券をお送りします。返信用封筒に送り先の住所氏名を記入し切手を貼って、日印協会『魅せられて、インド。』宛にお申し込みください。協会事務所に取りに来られる場合は事前にご連絡下さい。1 会員(法人・個人)様につき 2 枚、先着順と致します。

期 間: 2012 年 1 月 21 日(土) ~ 3 月 11 日(日) 水曜休館日  
10:00 ~ 20:00(入場は 19:30 迄)  
会 場: 福岡アジア美術館 企画ギャラリー(7 階)  
主 催: 福岡アジア美術館、西日本新聞社、テレビ西日本  
観覧料: 一般 800 円、高大生 500 円、中学生以下無料

#### インドを語る集い<様々なインド>第 28 回 ご案内

先月号でもお知らせしましたように、協会会員の古山みどりさんを講師にお迎えし、今話題のアーユルヴェーダを中心に講演して頂きます。まだ席に余裕がございますので、どうぞ皆様お誘いあわせのうえ、ご参加下さい。

日 時: 2012 年 2 月 17 日(金) 18:00 ~ 19:30  
会 場: 公益財団法人日印協会 事務所 東京都中央区日本橋茅場町 2-1-14 スズコービル2階  
講 師: 古山みどり (当協会会員 アーユルヴェーダセラピスト・カウンセラー・講師)  
定 員: 30 名(先着順 お断りする場合のみ連絡致します)  
参加費: 協会会員無料 (非会員 500 円)  
主 催: 公益財団法人日印協会 03-5640-7604 / E-mail partner@japan-india.com

## 第二回 日本・インド有識者フォーラム

### インド・外国直接投資(FDI)政策 ~本質的特長と自由化動向~

インド FDI 政策について精通者を招聘し、今後の展望等について動向を探ります。

日 時: 2012年2月17日(金) セミナーの部 - 15:00~17:30 / ディナーの部 - 18:00~20:00

会 場: TKP 田町カンファレンスセンター ホール2A

東京都港区芝5-29-14 田町日工ビル2階

参加費: セミナー部 無料 / ディナー部 会員(5,000円)・非会員(8,000円)

主催・問合せ先:

特定非営利活動法人日印パートナーシップフォーラム 03-3405-2236

E-Mail info@jipf.org (問合わせにはなるべく E-Mail をご利用下さい)

www.jipf.org (お申込みはこちらからお願いします)

## 南インド古典舞踊バラタナティヤム

### エミ・マユリ&ウドゥピー・ラクシュミナラヤン楽団リサイタル

南インドのチェンナイでの公演です。

日 時: 2012年2月23日(木) 17:45 開演

会 場: R.K.Swamy Auditorium (Mylapore, Chennai・600004, INDIA)

入 場: 無料

主 催: Sri Parthasarathy Swamy Sabha

## 日印国交樹立 60 周年記念

### 『日印交流の歴史写真展』及び『パネル・ディスカッション』 インドにて開催

国交樹立 60 周年にあたり、両国民の相互理解の深化と両国関係の更なる発展を願って、明治時代以来、一世紀以上に亘る両国、両国民の交流を記録した歴史的な「写真展」を開催します。

更に内外の関係者の協力と支援を得て『日印交流 回顧と展望 新しい絆を目指して』と題したパネル・ディスカッションを併せ開催します。

開催に当たっては、東京六本木の国際文化会館をモデルに創設されたニューデリーのインド国際センター(IIC、今上天皇が皇太子時代に訪印した際に定礎式に参加)と国際交流基金ニューデリー日本文化センターの協力を得ています。

期 間: 2012年3月14日(火)~3月20日(火)

会 場: インド ニューデリー IIC 内展示場

40, Max Mueller Marg, New Delhi 110003

共 催: 公益財団法人日印協会、IIC、国際交流基金ニューデリー日本文化センター

参加費: 写真展 パネル・ディスカッション 共に無料



#### ④ 写真展

ニューデリーでの開催の後、インド主要都市(コルカタ、ムンバイ、チェンナイ)にて、各地の日本総領事館と国際交流基金のデリー日本文化センターの協力で、60周年記念行事の一つとして開催する予定です。

#### ④ パネル・ディスカッション(ニューデリーのみ)

2012年3月14日 10:00~13:00

テーマ: 「日印交流 回顧と展望 新しい強固な絆を目指して 」

本事業の開催に際しては、500万円以上の事業費がかかる見込みです。副会長・理事を担当して下さっている法人会員企業を中心に特例寄付のお願いをしておりますが、その他の法人会員・個人会員各位へも協力をお願いする予定です。

## 日本における日印国交樹立 60 周年記念事業

1月から2月にかけて、下記のイベントが予定されています。3月以降も多くのイベントが予定されていますので、順次紹介致します。

### Celebrating 60 Years of India - Japan Diplomatic Relations

S.No.	Events	Period
January 2012		
1	Photo exhibition and Seminar on History of Japan-India Relations in coordination with Japan-India Association	16-21 January 2012
2	Exhibition of Indian Contemporary Art on the occasion of the Republic Day	26 January 2012
3	World Hindi Conference in coordination with Tokyo university of Foreign Studies	28-30 January 2012
February 2012		
4	Sapporo Snow Festival (i) 'Magic of Marble - Taj Mahal' Replica in Ice (ii) Participation of renowned Sand artists Mr.Sudarshan Pattnaik at the international competition segment (iii) ICCR sponsored Indian Evening at Sapporo - Bollywood troupe Visit of Tourism Minister, India	6-12 February 2012
5	Construction of replica of "Taj Mahal" in sand at a prominent location in Tokyo by renowned sand artist, Mr.Sudarshan Pattnaik	8th February 2012
6	Tourism Road Show - Performance by ICCR sponsored Bollywood Troupe	11-15 February 2012
7	Symposium "Japan - India relations in the 21st Asia Pacific Era" at the Keizai Koho Center	19th February 2012
8	Book launch - Tagore's issue of India Perspectives is being translated into Japanese by Japan Poets' Club (dates for the launch under discussion)	February 2012

資料提供: インド大使館

## 6. 新刊書紹介 Books Review



### § 『南アジアの文化と社会を読み解く』

2010年度に開講された「2010年度東アジア研究所講座」(慶應義塾創立150年記念)の講演集です。南アジアの各分野の第一人者による講演で、読み応え十分です。是非ご一読下さい。

編者: 鈴木正崇

発行: 慶應義塾出版

ISBN 978-4-7664-1902-3

定価: 2,000円+税

## 7. 日印貿易概況 (2011年第3四半期-前年との比較)

### Trade statistics between Japan & India (July-September 2011)

(単位：100万円)

輸 出 総 額 (日本 インド)	2010年7～9月 第3・四半期	2011年7～9月 第3・四半期	輸 入 総 額 (インド 日本)	2010年7～9月 第3・四半期	2011年7～9月 第3・四半期
	196,429	221,733		122,061	128,246
食料品	61	66	食料品	21,543	20,414
原料品	2,589	3,140	魚介類	9,909	10,689
鉱物性燃料	5,366	5,914	(えび)	8,842	9,393
化学製品	19,352	17,796	肉類	0	0
有機化合物	7,376	6,105	穀物類	27	112
医薬品	697	393	野菜	62	58
プラスチック	5,780	5,466	果実	1,137	1,436
原料別製品	46,572	46,199	原料品	15,148	10,933
鉄鋼	29,093	28,743	木材	54	16
非鉄金属	1,442	2,214	非鉄金属鉱	1,864	1,528
金属製品	7,875	6,429	鉄鉱石	8,361	3,542
織物用糸・繊維製品	1,976	1,893	大豆	0	0
非金属鉱物製品	1,739	2,446	鉱物性燃料	41,807	50,212
ゴム製品	3,662	3,536	原油及び粗油	0	0
紙類・紙製品	782	931	石油製品	41,807	50,212
一般機械	59,370	77,020	(ナフサ等)	41,802	50,201
原動機	11,283	21,385	石炭	0	0
電算機類(含周辺機器)	664	542	化学製品	10,062	7,836
電算機類の部分品	354	438	有機化合物	5,902	8,309
金属加工機械	10,884	11,407	医薬品	632	3,855
ポンプ・遠心分離器	7,387	8,712	原料別製品	20,491	13,473
建設用・鉱山用機械	2,433	3,087	鉄鋼原料製品	8,270	4,974
荷役機械	3,486	5,135	非鉄金属	412	1,509
加熱用・冷却用機器	2,254	2,329	金属製品	421	422
繊維機械	4,775	5,766	織物用糸・繊維製品	3,427	4,132
ベアリング	1,642	1,861	ダイヤモンド加工品	7,032	8,740
電気機器	30,971	37,159	貴石及び半貴石加工品	226	173
半導体等電子部品	3,935	7,716	その他非金属鉱物製品	281	317
(I C)	2,549	1,773	木製品等(除家具)	17	26
映像機器	1,063	1,871	一般機械	2,153	2,352
(映像記録・再生機器)	906	1,792	原動機	444	474
(テレビ受像機)	158	76	電算機類(含周辺機器)	15	16
音響機器	17	38	電算機類の部分品	94	98
音響・映像機器の部分品	154	64	電気機器	1,862	2,212
重電機器	3,266	4,024	半導体等電子部品	71	61
通信機	1,377	909	(I C)	29	37
電気計測機器	5,463	6,783	音響映像機器(含部品)	8	10
電気回路等の機器	6,464	8,348	(映像記録・再生機器)	0	0
電池	126	198	重電機器	453	292
輸送用機器	17,821	17,340	通信機	29	114
自動車	2,421	1,930	電気計測機器	222	213
(乗用車)	2,305	1,929	輸送用機器	853	1,170
(バス・トラック)	16	612	自動車	70	141
自動車の部分品	14,836	13,543	自動車の部分品	756	925
二輪自動車	36	77	航空機類	0	6
船舶	0	0	その他	8,144	8,159
その他	14,355	17,100	科学光学機器	215	218
科学光学機器	3,406	3,798	衣類・同付属品	4,036	4,672
写真用・映画用材料	1,643	1,511	家具	86	118
記録媒体(含記録済)	603	528	バッグ類	662	845

0は表示単位に満たないもの - はデータの無いもの

資料：公益財団法人日本関税協会『外国貿易概況』『日本貿易月表』

## 8. 掲示板 Notice

<次回の『月刊インド』の発送日>

今回は、2-3月合併号となり、2012年2月17日(金)の発送を予定しております。3月の発送はございませんので、催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

<お知らせ>

1月4日に『現代インド・フォーラム2012年 冬季号 第12号』を発売し、当協会ホームページに掲載致しました。「日印国交樹立60周年記念号」として2論文を掲載しておりますが、追加の論文を準備中です。御期待下さい。

<編集後記>

明けましておめでとうございます。

今年は天翔ける龍年です。龍と言えば、皆様ご存知のように中国の象徴ですが、今年は彼の国と日本との国交正常化 40 周年として周年事業が行われています。一方、インドと中国の関係や如何にと振り返ってみれば、両国の国交は日印よりも早くからあり、2010年は国交樹立 60 周年でした。しかし、未だに両国の抱える最大の懸案事項は未解決です。「龍象共舞」はあるのか、そして日本はどのように絡んでいくのか？

周年行事がカプルなどと目先の事にとらわれずに、とここまで考えて、疑問が。日本は何？ 象で、龍で、朱鷺...では迫力が今一つだし、ここは幻獣の河童...では龍や象に絡めない、いやいや、象も龍も自国の文化に取り込む懐の深さが我が国の強みです。

ここは、日出国として龍象共舞を照らし、象の如く揺ぎ無く立ち、龍の如く飛翔し、復興に向かう年となるよう、そして皆様には幸多き年となりますよう、お祈り申し上げます。

本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。



日印親善のために会員の輪を広げましょう

法人会員・個人会員の入会をお待ちします



1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された日印協会は、これまで日印の相互理解と両国の親善増進のために、日々地道な努力を続けてまいりました。ここ数年来の日印の良好な関係がより一層深まるためにも、会員の獲得は重要な課題であると考えています。インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。

ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。

日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

年会費：個人	6,000 円/口	入会金：個人	2,000 円
学生	3,000 円/口	学生	1,000 円
一般法人会員	100,000 円/口	法人	5,000 円
特別法人会員	150,000 円/口	(一般法人、特別法人会員共に)	



本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

月刊インド Vol.109 No.1 (2012年1月20日発行) 発行者 平林 博 編集者 青山 鑲一  
発行所 公益財団法人 日印協会  
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階  
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com  
ホームページ: <http://www.japan-india.com/>

